

木曽地域の発展方向

上松町、南木曽町、木曽町、木祖村
王滝村、大桑村

未来につながる木曽の豊かな農業・農村と食

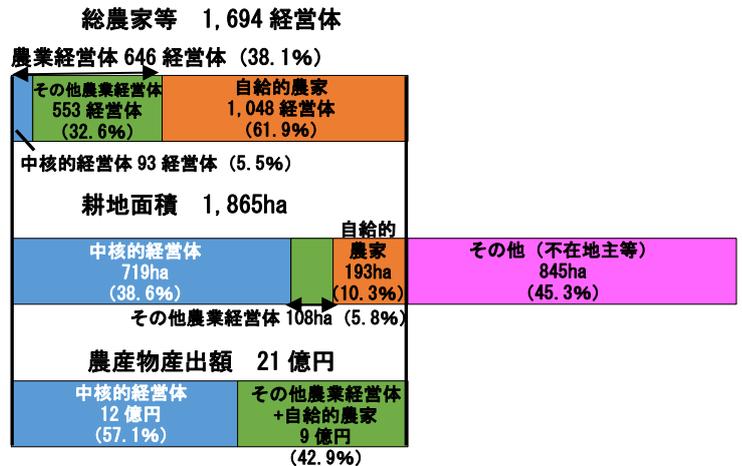
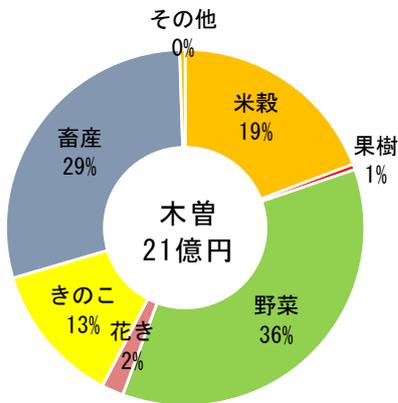
農業・農村の特徴

木曽川の本支流沿いには、小区画な農地が点在し、水稻、そば、飼料作物などの営農が中心となっています。一方、木曽町開田高原や木祖村西山地域にはほ場整備された優良農地が広がり、夏季の冷涼な気候を生かした「御嶽はくさい®」等の高原野菜や、そばの産地が形成されています。畜産業は古くから「木曽子牛」として全国供給される産地です。

日本遺産木曽路に登録された文化財や、自然豊かな景勝地には大勢の観光客等が訪れ、飲食店では地元で根付き守られてきた食文化（木曽牛、そば、すんき、赤かぶ、ほおぼまき等）で来訪者をもてなしています。

一方、木曽地域全体で、少子高齢化に伴う産業の担い手不足が進行し、地域機能の維持が重要課題となっています。

【2020年】（2020農林業センサスから推計）



めざす姿

I 皆が憧れ、稼げる木曽の農業

- 担い手への農地の利用集積や、新規就農者が円滑に農地の確保を行うための「地域計画」が作成され、農地の有効活用が図られています。
- 「御嶽はくさい®」、「木曽牛」の産地では農業DXが進み、多様な担い手が活躍しています。
- 地域に根差した飼料生産と、新たな技術（スマート農業技術等）を導入した安定的な畜産（和牛子牛出荷）が行われています。
- 木曽を愛する多様な担い手が活躍し、新たな品目の生産が拡大しています。（野菜・花き・えごま等）
- 実需者が求める品質・数量の米、そばが安定供給されています。

Ⅱ しあわせで豊かな暮らしを実現する木曾の農村

- DXが進展し、木曾を楽しむ半農半X、定年帰農者等多様な担い手が活躍し、農村集落との関わり合いが強まっています。
- 自然災害や野生鳥獣被害の少ない安全安心で豊かな農村環境（景観）を維持しています。

Ⅲ 魅力あふれる木曾の食

- 木曾地域を訪れる観光客等をおもてなしする飲食店、農産物直売所や加工所と連携した、伝統的食材が安定供給されています。
- 子どもたちが木曾の伝統食材に触れ、農業・農村の大切さを将来につなげる活動が行われています。

施策の展開方向

I 皆が憧れ、稼げる木曾の農業

重点取組1 多様な担い手が支えあう木曾の農業・農村

農業従事者の高齢化が進行しており、経営の継続が困難な農家が増加しています。担い手不足は、農業生産量の減少や遊休荒廃地の増加だけでなく、集落機能の維持にも影響を及ぼしています。

「人・農地プラン」の法定化に伴い、市町村が担い手への農地の集約化を明確化した「地域計画」の策定が義務付けされました。

新規就農者は、年間2名程度を確保していますが、木曾地域の実情を考慮しながら、I・Uターン就農や定年帰農者等の多様な担い手の確保を図ります。

【達成指標】

項目	2021年度 (現状)	2027年度 (目標)
「地域計画」の策定数	—	22
新規就農者数（49歳以下）	3人/年	1人/年

【具体的な施策展開】

- 地域の関係者が一体となって話し合い、めざすべき将来の農地利用の姿を明確化する「地域計画」の策定・実行を支援
- 就農相談会、移住・定住フェア等での木曾農業の情報発信、PRによる担い手確保対策の推進
- 新規就農里親研修事業等を活用した新規就農者の育成
- 農業入門講座の開催による定年帰農者への支援
- 高校と連携した食の魅力発信と、高校生の就農への意欲を向上



【研修生への個別支援】

重点取組 2 木曾ブランドを支える産地づくり（土地利用型作物、園芸品目、畜産の振興）

農業者の高齢化や担い手不足による生産力等を補うため、地域農業のDX、スマート農業等、新技術の積極的な導入により、立地条件を活かした「御嶽はくさい®」「木曾子牛」の木曾ブランドに加え、マーケットニーズに応える産地（良質米、花き・花木類）強化を推進します。

【達成指標】

項目	2021年度 (現状)	2027年度 (目標)
米の1等米比率	78.9%	85%
「御嶽はくさい®」栽培面積	50ha	45ha
「木曾子牛」出荷頭数	5.7頭/戸	6.0頭/戸
花き・花木類の栽培面積	2.3ha	2.4ha

【具体的な施策展開】

- 斑点米カメムシにおける病害虫防除組合の農業用ドローンによる適期防除支援と生産者への防除基本技術の徹底及び、収穫適期情報の提供による適期収穫の推進での1等米比率向上
- スマート農業技術等の導入による「御嶽はくさい®」の品質及び生産性の向上
- 畜産クラスター協議会と連携したクラスター事業の推進
- 地域に適応した花き・花木の生産支援



【農業用ドローンによる防除】

II しあわせで豊かな暮らしを実現する木曾の農村

重点取組 3 みんなが生き生き暮らせる、持続可能な農村づくり

野生鳥獣害による農作物被害は、農産物の生産を減少させるだけでなく、農業者の耕作意欲を減退させ、農地の荒廃化に繋がり、農地や農村環境が持つ多面的機能を低下させ、地域の集落機能にも影響を及ぼしています。

農地や農村環境の維持や野生鳥獣害対策等について、農業者だけでなく多様な地域住民が協力して行う地域活動や体制づくりを支援します。

また、農業用水等の地域資源を活用した小水力発電施設の整備により、持続可能な農村づくりを推進します。

【達成指標】

項目	2021年度 (現状)	2027年度 (目標)
野生鳥獣による農作物被害額	12.8百万円	11.8百万円
地域ぐるみで取り組む多面的機能を維持・発揮するための活動面積	493ha	489ha
農業用水を活用した小水力発電の設備容量	34.4kw	366kw

【具体的な施策展開】

- 関係者一丸となった捕獲、防除、環境整備等の野生鳥獣被害対策の推進
- 多面的機能支払事業及び中山間直接支払事業の一層のPRによる取組拡大と活動支援
- 多面的機能支払事業の事務手続き研修会、水路等の維持補修に関する講習会の開催
- 農業用水を活用した小水力発電施設の整備推進及び技術的支援



【上松町吉野発電所】

Ⅲ 魅力あふれる木曾の食

重点取組4 木曾ならではの食による地産地消と食育の推進

木曾の伝統食である木曾牛、伝統野菜やすんき、そば等を「木曾ならではの食」として次代に継承していくため、さらなる地元の理解と地産地消を進めるとともに、観光客や郡外へのPRを推進します。

【達成指標】

項目	2021年度 (現状)	2027年度 (目標)
伝統食材提供店舗数（木曾牛、すんき、木曾産そば）	57店	60店
伝統野菜の栽培面積（玉滝蕪など6品種）	2.1ha	2.1ha

【具体的な施策展開】

- 「木曾ならではの食材」を扱う店舗と連携した木曾地域の魅力発信
- 担い手不足や形質の保存等生産組織毎の実情に応じた
伝統野菜の継承支援による栽培面積の維持
- 小学校・中学校を対象とした食育授業等による地元農畜産物への
理解促進と地産地消



【木曾の赤かぶ】